

1 開催概要

日時 令和4（2022）年8月1日（月）18時30分～21時

場所 世田谷区役所本庁舎 庁議室

- 目的
- ・委員どうしの親睦を深めて、今後の議論の活性化に寄与する。
 - ・区民利用施設に望まれる事業、活動のイメージを導き、それをもとに基本方針・目標を定めるためのキーワードを考える。

2 ワールドカフェの流れ

検討時間 (目安)	内容
0:25	お題① 事前ワークシートを見てよいと思ったアイデアや、そこから膨らませたアイデアを出し合う → ここで取り組むべき事業・活動の全体像の検討
～グループ移動～	
0:20	お題② お題①に書いてあるアイデアのなかで、区民利用施設にとって特に大切な取り組みを考える → 基幹となる事業・活動の抽出
～元のグループに戻る～	
0:20	お題③ お題1・2を踏まえて、区民利用施設で大切な活動をひとこと言い表すと何かを考えて出し合う → 基本方針・目標を考えるためのキーワード抽出
	グループ発表

3 グループ分け

	1回目・3回目	2回目
A	齋藤副委員長、柴田委員、藤原委員、松本委員、細川委員（オンライン）	齋藤副委員長、古森委員、松田委員（オンライン）、吉澤委員（オンライン）、佐藤委員（庁舎整備担当部長）
B	曾田委員長、古森委員、和地委員、吉澤委員（オンライン）、清水委員（世田谷総合支所長）	曾田委員長、大坪委員、柴田委員、片切委員（オンライン）
C	福岡委員、大坪委員、松田委員（オンライン）、片切委員（オンライン）、佐藤委員（庁舎整備担当部長）	福岡委員、藤原委員、和地委員、松本委員、細川委員（オンライン）、清水委員（世田谷総合支所長）

4 結果概要

Aグループは区民交流スペース等、Bグループは区民会館エリア、Cグループは広場と屋上庭園とグループごとに検討する施設を分け、それぞれに専門性や関心の高い方を中心としつつ、シャッフルで異なる分野に触れることができるようにした。

Aグループは、参加と協働のシンボルになるものと考えていくなかで運営の話に主眼が置かれた。新しい人が常に参加でき、多様な人が関わって、コラボレーションする組織となり、トライ＆エラーを繰り返しながら「汽水域」の実現を目指していくことが大事であるとした。

Bグループでは区民会館単体のことだけでなく、区民利用施設全体の一体運用という目線で交流をデザインし促進すること、区民92万人が利用者、または受益者であるような質の高い活動を目指し、「自ら提案し、交流をデザインする」という文化や慣習を培うことが大切であるとした。

Cグループでは作る、育つ過程を楽しむこと、「コモン」という考え方で色々な人が一緒に時間をかけて作り上げていくことが大切であるとした。

また、区民や区職員がふらっと訪れて自由に過ごせる空間となること、この施設に収まらずに司令塔的に活動を広げることも重要であるとした。

全体を通じ、多様な区民、区職員が交わり、区民利用施設内のさまざまな施設の運営に横断的に関わること、理想像を固めずに自分たちに沿ったあり方を探りながら育てていくことで世田谷らしい施設づくりを目指していくという方向性となった。

5 各グループの意見交換の結果

Aグループ 区民交流スペース、区民交流室

議論の内容

お題① お題①では、区民交流スペース及び区民交流室で想定される活動として、右図の模造紙に記載の通りのアイデアが出された。なお、出されたアイデアをカテゴリ化すると、活動を考える上で特に大切にすべき視点として、次の2点が挙げられた。

- A** 日常的にどのような利用がなされているかが鍵。「サードプレイス」として魅力的な場にするための方策が必要である。
- B** どんな人（運営者）がどのような運営（運営方法・規則）をするかが重要で、さらには区民も参加と協働ができる仕組みが必要である。

また、日常的な利用とは反対のハレの日（日曜日等）の利用方法として、マルシェ等の地域の人々が訪れるようなイベント等の意見が出た。

お題② お題②では、お題①で特に議論されたポイント2点について、更に詳しく議論を行った。

- A** 目的がなくてもふらっと立ち寄れるような、また、長時間滞在したくなるような空間と居場所づくりが大切。例えば、Wi-Fi設備や子どもを見ているもらえるスペース・備品等があればよい。
- B** 全施設で考えると運営者に求められる要素はかなり複雑になるのではないかと。一括委託・分離委託というありきたりなことではなく、世田谷らしい仕組みづくりを考える必要がある。また、区内には区民参加も含めた様々な視点を持って活動している団体や、前例となる仕組み等、活用できるリソースも多くある。

お題③ お題①②の議論を経て、ポイントBの運営者や運営方法については、次のことが重要であるとした。

- アートマネジメント、エリアマネジメント、パークマネジメント、参加と協働のマネジメントという4つの様々な視点を持つ運営者が必要であること
- 組織だけでなく個人でも関わられるような「ゆるい会議体」
- 実験的運用の中でトライ＆エラーを重ね、常にアップデートされていくこと

また、本スペースで行われる活動は、継続性をもって取り組まれるべきという意見が出され、その為に必要なこととして、次のようなアイデアが出た。

- 国士館大学等、「近所」との協力
- 区内のファシリテーターが活躍し、若い人達が育つ場であること
- 新しい人が常に流動的に入ってくる

アイデア・意見（模造紙の内容）

<p>お題③ お題1・2から区民利用施設の活動で大切なことを一言で表すと？</p>	
<p>運営者・運営方法</p> <p>アートマネジメント、エリアマネジメント、パークマネジメント、参加と協働のマネジメント、4つの視点を持つ運営者 →フィロソフィーを共有する共同体 →個人も、いろんな人が参加できるゆるい会議体</p> <p>実験的運用→常にアップデートされていく ステークホルダー同士が対等な関係で実験できる場 →フラットに混ざり合う「汽水域」</p>	<p>継続性</p> <p>「近所」が重要→国士館大学の協力 →ゼミの常駐 →文化祭実行委員会のように、学生主体で</p> <p>区内のこれまでの活動で育っている ファシリテーターが活躍し、若い人達が育っていく場</p> <p>常に新しい人が入ってくることで、継続性のあるものになる</p>
<p>お題① ワークシートで良いと思うアイデア、そこから膨らませたアイデアは？</p>	
<p>区民交流スペース</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>日常的な利用</p> <p>「サードプレイス」 目的が無くても来れる、普段から使える場</p> <p>→魅力的な場所にするにはどうしたら良いか？</p> <p>「井戸端会議」 → 知らない人どうしの場では難しい</p> <p>中心にカフェ → 若者たちが出店</p> <p>↓</p> <p>コンビニらしくないコンビニ →売っている人がいて、人と人とのやりとりができる →地ビール等、世田谷にしかない商品を売る、世田谷にしかないコンビニ</p> <p>中庭の魅力</p> <p>区民交流アワー 運営も含めてシェアする場</p> <p>幼児が遊べる フリースペース (絵本・おもちゃ)</p> <p>ベンチに座って休憩 することを促すデザイン</p> </div> <p>↑</p> <p>若者の出店を調整できるような運営者</p> <p>・個人でも関われる運営方法 ・とにかくいろいろ実験できる、アップデートを続けていける運営 ・スペースの自主的な運用を続けられるパワーを持った運営</p> <p>ブリッジセッタがやのように、様々な実験ができる期間を設ける →企画することの楽しさがわかる →運営者を育てる</p> <p>区役所1Fのため、「参加と協働ができる場所」として、区民にもPRしやすい</p> <p>ハレの日の利用 試される「日曜日の運営」</p> <p>日曜日に人が来るイベントは？</p> <p>マルシェ（朝採れ野菜） フリーマーケット</p> <p>規模が大きいと気分が上がり、来場したくなる。</p>	<p>お題② お題①で特に大切な取組は？</p> <p>アートマネジメント、エリアマネジメント、パークマネジメント、参加と協働のマネジメント、4つの視点を持つ運営者が必要！</p> <p>・作る？育てる？自分たちで行う？ →4つの視点、それぞれを持っている人、団体は区内に既にある</p> <p>・ホール、緑、交流スペースを分離発注するのではなく、トータルで考えられるような、世田谷らしい仕組みづくりが大切</p> <p>利用者同士の交流を運営者が補助（アオーレ長岡の事例）</p> <p>ゆるい会議体</p> <p>日常的な利用</p> <p>学生の日常的な利用 ・Wi-Fiがあり、無料で長時間利用が可能な空間</p> <p>子どもを見ているもらえる</p>
<p>区民交流室</p> <p>日常的な利用のために必要な設備・機能や運営者に必要な視点について話し合った。</p>	

グループワークの様子



5 各グループの意見交換の結果

Bグループ 区民会館ホール、ラウンジ、エントランス、練習室・集会室

議論の内容

お題① お題①では、区民会館ホール、ラウンジ、エントランス、練習室・集会室で想定される活動について、右図の模造紙に記載の通りのアイデアが出された。特に重要な点として、以下の3点が挙げられた。

- ・ホールだけでなく、区民会館の他のエリアを含めて施設全体を活用する
- ・横のつながりをつくる仕組みづくり
- ・既存施設との役割分担

また、音楽系の鑑賞プログラムの充実、オーディションを行う認定制度を作って、ホールを登竜門的な場所にしていく、アーティストとアマチュアの交流など、区民会館エリアの活動について幅広くご意見が挙がった。

お題② お題②では、それを受けた方策として、事業面では、ホールのイベントと連携したワークショップの実施や全区的な連携、出演者同士の交流機会を設ける、などの意見が挙がった。

運営面においては、誰がどのように運営するとしても、**区民が関わりやすい仕組みづくり、現状よりも多くの区民に利用してもらう工夫**が必要である、とした。

その他、共用部であっても、外から見えなくできるような備品等を工夫できないか、ラウンジで時間調整をする際に、カウンターで飲み物の提供があると良いなど、多様な利用を想定した議論が行われた。特に、ラウンジについては、多くの区民が快適に利用できるよう、**同じ人が場所を独占しないための工夫**が必要である、という点について議論が深められた。

お題③ お題③では、まず、事業面において、既存の世田谷パブリックシアターとの連携等を含めて「**全区的に考える**」というキーワードが挙げられた。それに関連して、連携していくために、「**コーディネーターを置く**」、「**区内のネットワークの見える化**」や「**みんなが提案し、交流機会をデザインする**」ことが重要である、とした。
また、委員自身の経験として、地域の恒例行事のお祭りから地域の人との交流が生まれ、つながりが長く続いた例の紹介から「**長期的な視点**」も大切である、という意見も挙がった。
全般として、お題①～③を実現していくためには、**区も区民もみんなが提案しながら施設のルールや空間をつくっていくことが重要**である、とした。

アイデア・意見（模造紙の内容）

お題③ お題1・2から区民利用施設の活動で大切なことを一言で表すと？

事業・活動 全区的に考える（世田谷パブリックシアターとの連携など）	運営 コーディネーターを置く 長期的な視点 お祭り→交流→つながり	区内のネットワークの見える化 ・参加したい人が入りやすい ・横のつながりを作れる ・自然に繋がる	交流の機会のデザイン ・空間 ・ルール ・みんなが提案する（区からも区民からも）
---	---	---	---

お題① ワークシートで良いと思うアイデア、そこから膨らませたアイデアは？

区民会館ホール 事業・活動 ホールとホワイエの一体利用 区民が本物を鑑賞できるプログラム（主に音楽） 世田谷パブリックシアターとの役割分担→連携、活動を伝える	運営 プログラムの充実 オーディションをして認定を付与するような演奏場所として、みんなが目指す、登竜門的な場所にしていきたい。 全館イベント フェスティバル的な横のつながりをつくる仕組みづくり ・利用者懇談会 ・情報交換会 ・区民利用のしやすいシステムづくり（学校等）
ラウンジ プレイメーカーの機能を理解して企画の実現をサポートする人	使いやすい利用料金
エントランス 共用部でのコンサート ホール以外の演奏場所の確保 アーティストとアマチュアの交流	
練習室 集会室	

お題② お題①で特に大切な取組は？

誰がどう運営するか ・地域の人も関わりやすい仕組みづくり ・92万のうち使っていない人にどう使ってもらえるか
全区的な連携、出演者同士の交流 多様な芸術活動の場、区内の他施設と連携した芸術祭（音楽、文学） 下北沢、下高井戸で活動する人たち、民間スタジオや音楽教室で活動する人たちが集う
同じ人だけが居続けない運営上の工夫が必要 →無料ではなく、有料化して、収入を運営費に回せると良いのではないか
外から見えなくできるづくり ・備品を工夫することで、区切って、エリアを限定した使い方ができないか？ →有料貸しエリアにできるか？
交流を生む仕組みづくり ・運営者にどこまで任せるか？ ・ちょっとした時間調整に使えるスペース ・カウンターで飲み物くらいは提供してほしい
ホールのイベントと連携したワークショップ

グループワークの様子



5 各グループの意見交換の結果

Cグループ 広場・ピロティ、東棟屋上庭園

議論の内容

お題①

お題①では、主に広場・ピロティが日常的に使い心地の良い場所となるために必要な設えについての意見が多く挙がった。
特に以下の点について、多くの意見があった。

・日差しの強さ、夏の暑さへの対策

備品や植栽等でどのように対策するか

・エリア、空間を分ける

さまざまな備品や仕上げでエリアを分けて心地よい空間をつくる

また、屋上庭園については運営面について、区民が自分の庭としてみんなで運営することについて意見が交わされた。

お題②

お題②では、それを受けた方策として、**さまざまな形の家具などでゆるやかに区切られ、思い思いの時間を過ごせる場づくりが大切である**とした。

一方、他グループの方々からの新しい意見をお題②に限らず①にも採用し、**広場やピロティでも音が聴こえるような、文化芸術がにじみ出す空間づくり**といった、区民会館とのつながりがある取組の必要性についても議論が行われた。

一般的な緑の活用を含めた屋上庭園での取り組みについては、お題①よりさらに詳細に意見が挙がり、**区民が自然に親しめる空間づくり**、また**区民管理**について議論が深められた。

お題③

お題③では、まずお題①から続けて議論されてきた日常使いを意識した「**日常を豊かに**」というキーワードが挙がった。「ハレ」（特別）の場ではなく「ケ」（日常）の場として、生活の延長にあることを大切にしたいという意見が多くみられた。

次いで、区民が主体的に管理に関わる共同管理のあり方として「**コモン**」というワードが出た。色々な人たちが一緒に時間をかけて、組織や人を育み、作る過程を楽しんで、途中で形を変えながら進んでよいということが確認された。

最後のキーワードとして、この活動を区民利用施設外にも広げるとともに、活動そのものを伝播していただくことが大切であるという議論から、「**緑の司令塔**」という言葉が挙がった。

アイデア・意見（模造紙の内容）

お題③ お題1・2から区民利用施設の活動で大切なことを一言で表すと？

コモン

- ・共同管理（コモン）
- ・ステewardシップ
- ・ダイバーシティ+コモナリティ

- ・かなり裁量権のある区民の関与
- ・調整役

- ・誰とやるのか、何をやるのか、どうやって決めるか

最初から完成形ではなく途中で変えても良い 固定した管理ではない

日常を豊かに

“ケ”を大切に

生活の延長

職員が積極的に使い、区民と交わる

拡がる→伝播する 緑の司令塔

小学校や団体等に拡げる

各地に活動を伝播する

お題① ワークシートで良いと思うアイデア、そこから膨らませたアイデアは？

広場・ピロティ	事業・活動 パフォーマンスの場所 （学校が申請して気軽に使える） キッチンカーや楽しい車がくる ハレの場 ストリートピアノ （ホワイエかエントランスに置いて 屋外に出すか？）	日常使いのための設え 腰掛ける場所 日陰 （夏は涼しく、冬は温かい） 少人数のベンチ →かまどベンチ （メンテナンスが大切） →テラスにもベンチ 床の仕上げ 土と芝 エリアを分ける ケヤキが6本ある（しかない） ※自然な樹形を保つこと 移動できるプランター プランターつき家具で空間を分ける 子ども等が土遊びできる （本当は来やすい広場がいい）	・見通し ・心地よさが重要 → 日影図を見て備品を考える ・備品は画一的ではなく、 いろいろな種類、かたち があるように 自発的に集まる、 人工的だけど あたたかみを持つもの
	東棟屋上庭園 区民が運営する コモンズ みんなで運営する 事業、活動をつくる ・人ごとでない空間 ・自分の庭 上から見て おもしろい植栽 緑はできるだけ 取り入れる 災害時のことを考える		

お題② お題①で特に大切な取組は？

よろずのカたち、大きさ、用途がある家具が置かれている →ゆるやかに区切られ、好きなように、思い思いに滞在できる ・日陰を使う ・自然を感じる ・使う人が空間を創る ・ここで飲食がしたい。近所の人々が屋に飲食しにくる。	音が聴こえてくる ・同時に、いろいろなところで文化、芸術のかおりを感じる ・外、区民交流スペース、エントランス等でパフォーマンス、 ランチコンサート ・パブリックビューイング
食べられるものが育てられている 区民が一部管理する ・ステewardシップ （責任ある管理） ルールに対して機械的に ではなく柔軟に対応する 鉄腕DASHのような屋上 西棟のビオトープも活用したい	土いじりの空間 水辺、水盤 ・雨水利用 ・薬が生えにくい深さ 芝生 ・踏みたい、寝転がりたい →足も洗いたい 職員が使いこなす ・屋上でのミーティング

グループワークの様子

